

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735-58-1481

～繁殖和牛～ 分娩間隔短縮のために

子牛の販売益が収入のほとんどを占める繁殖和牛農家においては、分娩間隔の短縮は非常に重要です。母牛の飼料費・管理費が削減できると同時に、子牛の出荷頭数が増えることで二重の増収が見込めるからです。

しかし、全国的にみても理想とされる1年1産を実現できている農場は稀です。牛の妊娠期間は約 285 日なので、1年1産を実現するためには、分娩後 80 日以内に受胎させる必要があります。今回は、そのためのポイントをいくつかご紹介します。

1. 発情発見率の向上に努めましょう

● 発情を見つけるための時間をつくる

1回につき10分程度の観察を日に2、3回行いましょう。給餌や清掃の合間に観察するのではなく、きちんと発情発見のための時間をつくることが重要です。

● 繁殖記録を残す

繁殖カレンダーへの記入がおすすめです。無ければノートや黒板でもよいので、分娩日や人工授精日などの記録を必ず残しましょう。

● 牛舎を明るくする

牛舎内が明るければ観察しやすくなります。

2. 明瞭な発情のために適正な飼養管理を心がけましょう

● 充分量の粗飼料を与える

常に飼槽がカラなのは明らかに粗飼料不足です。ただし、粗飼料量を変化させたときは、やせすぎ、太りすぎにさせないように注意しましょう。

● ストレスを軽減する

飼槽・給水器・床材を清潔に保つこと、サシバエ・アブなどの衛生害虫対策、十分な広さの房の確保、暑さ寒さ対策などです。

特に和歌山県では、夏場の暑さ対策は非常に重要です。

3. 人工授精後・分娩後に注意しましょう

● 人工授精後も発情徴候に注意する

人工授精しても必ず受胎するとはかぎりません。人工授精後、2回目までの発情予定日は注意深く観察しましょう。

● 必ず妊娠鑑定をする

人工授精後50日前後までに発情徴候が観察されなかったときは必ず妊娠鑑定をしましょう。

● 繁殖障害牛を早期発見する

分娩後50日を過ぎても発情がこない、また発情徴候が何日も持続するなど発情に関する異常があれば獣医師に連絡しましょう。

これらのポイントを押さえて、分娩間隔の短縮に努めましょう。

詳しくは『熊野牛繁殖雌牛飼養管理マニュアル』を再度ご覧になってください。

気になる点や不明な点がありましたら所轄の家畜保健衛生所にご相談ください。